

評価結果公表票

作成日 平成20年9月8日

【評価実施概要】

事業所番号	270201585
法人名	株式会社草菴
事業所名	グループホーム草菴
所在地	弘前市城東2-2-6 (電話) 0172-27-7221
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3階建ての	2～3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円または12,000円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	財団法人鳴海研究所清明会 鳴海病院、鳴海デンタルクリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「助けあって生き生きと 助けあっていつまでも 助けあって暮らしたい」というホーム独自の理念を掲げており、利用者が自分でできることや得意なことには積極的に取り組んでもらい、それを職員が支援するなど、「助けあって」という理念の実現を目ざしている。利用者一人ひとりの生活歴等を考慮し、洗濯や掃除、配膳といった役割を促したり、漬物を漬けてもらうほか、買い物やドライブ、祭り見物に出かけたり、書道やちぎり絵、手芸等の幅広い楽しみごとを促し、利用者が生き活きと過ごせるよう支援している。

詳細なアセスメントを行い、利用者や家族の意向、職員の気づき等を取り入れた介護計画を作成している。また、計画にそったサービスが提供されているかを確認するために毎日の記録が行われており、それを基に見直しを行い、現状に即した計画を作成するよう努めている。

代表者が栄養士の資格を持っており、一人ひとりの好みや栄養バランス、摂取カロリー等に配慮した献立を作成し、品数の多い食事を提供するなど、食を楽しむケアに力を入れている。

【特に改善が求められる点】

地域との交流が図られているので、その取り組みを基に話し合いを行うなど、現在の理念に地域との関わりを盛り込んでいくことに期待したい。

グループホーム協会に加入しているが、同業者との交流や連携を図るまでには至っていないので、地域包括支援センターの協力を得るなどの取り組みを行い、同業者との情報交換や意見交換等を行う機会を設けてはどうか。

職員の希望等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。また、計画には地域福祉権利擁護事業や成年後見制度、虐待、感染症等に関するテーマを盛り込み、全職員がより知識を深めていくことに期待したい。

夜間を想定した避難訓練を利用者と一緒に行うなどの取り組みは行っているが、災害時に備えて数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品、ポータブルトイレ等を用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に改善に向けた話し合いを行っており、トイレに手すりを追加したり、預かり金や危険物の保管場所を変更する等の取組みにつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義等を理解しており、自己評価は職員一人ひとりが取り組んだ結果を基に、管理者が取りまとめて完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には利用者や家族、民生委員、老人クラブ会長、市の担当者がメンバーとして参加している。会議では主に活動状況の報告を行い、メンバーから意見や要望を積極的に出してもらっている。また、利用者に参加を勧めたいイベントが紹介されることもあり、外出の機会の増加につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>運営推進会議で家族の意見を聞くほか、面会時や電話でも家族が要望等を話しやすい雰囲気を作っている。また、入り口に意見箱を設置したり、ホーム内外の苦情受付窓口を明示するなどの取組みも行っており、家族から意見等が寄せられたときは職員間で話し合いを行い、今後のケアに反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の文化祭に書道やちぎり絵、手芸などの利用者の作品を出品したり、児童館や保育園のひなまつりやお遊戯会等を見学に行くなど、近隣との交流を図っている。また、消防団が正月にまといふりを披露するために訪問するなど、地域に開かれたホーム作りが行われている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>ホーム開設時からの理念を掲げており、職員が共有した上で、その実現に向けて日々取り組んでいる。また、理念は利用者へ書道で書いてもらい、ホールやパンフレットに明示している。</p> <p>契約時には方針等を利用者や家族に説明して納得を得るほか、契約改訂時や退居時にも説明し、同意を得ている。退居時には必要に応じて退居先に関する情報提供等も行っている。</p> <p>利用者への影響に配慮し、定期的な職員の異動や配置換えは行っていない。やむを得ず交代する時などは職員間の引継ぎを十分に行うとともに、新しい職員を利用者に紹介している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用開始前に面談や見学を行って一人ひとりの意向等を把握するほか、入居後は声がけを工夫するなどの取組みを行い、利用者がホームに早く馴染めるよう配慮している。</p> <p>職員は、料理や洗濯等の家事や、体操や歌を歌うなどのレクリエーションなどを利用者と一緒に行い、一人ひとりの感情を理解し、共感するよう心がけている。また、配膳や掃除、縫い物等の場面では利用者へ手伝ってもらうなど、利用者職員が助けあひながら生活を共にしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>詳細なアセスメントを用いて利用者及び家族の思いや意向を把握し、介護計画作成時に反映させている。また、計画は3ヶ月ごとに見直しを行うほか、状態変化等がある時は随時の見直しを行い、現状に即したケアを提供できるよう努めている。</p> <p>利用者が希望する医療機関での受診を継続できるよう通院支援を行うほか、協力医療機関を確保して緊急時などいつでも対応してもらえる体制を整えている。また、受診結果は必ず家族に連絡し、共有している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>介助時は耳元で声がけしたり、居室に誘導して対応するなど、一人ひとりのプライバシーや羞恥心に配慮したケアを心がけている。また、個々のペースも大切にしている。</p> <p>食事や入浴、居室作り等の場面では利用者の希望や好みを取り入れており、一人ひとりが居心地良く生き生きと暮らせるよう支援している。</p> <p>全職員が身体拘束の内容や弊害について理解しており、拘束の無いケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて家族の同意を得たり、経過等について記録を残す体制を整えている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「助けあって生き生きと 助けあっていつまでも 助けあって暮らしたい」というホーム独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものにはなっていない。	○	地域との交流は図られているので、その取り組みを理念に反映させてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が書道で書いた理念をホールやパンフレットに明示し、職員間での共有を図っている。また、利用者が一人でできることや得意なことは取り組んでもらい、それを職員が支えるなど、理念の「助けあって」を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区の文化祭に書道やちぎり絵、手作りのコースターやクッションカバーを出品したり、地域の児童館や保育園の行事に出かけるなど、積極的に近隣との交流を図っている。また、毎年正月には近隣の消防団がまといふりを披露するために訪問するなど、地域に開かれたホームとなっている。外部の人を受け入れる際は利用者のプライバシーの保護に十分に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義等を理解しており、自己評価作成時は全職員で意見を出し合い、それを会議でとりまとめて完成させている。また、前回の外部評価結果を受けて手すりを追加したり、預かり金の保管場所の変更するなど、積極的に改善に向けて取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者や家族、民生委員、老人クラブ会長、市担当者がメンバーとして参加している。会議では日々の取り組みを報告したり、行事や要望などに関する意見交換等を行っており、会議で出された意見は職員間で話し合い、家族に向けて利用者から絵手紙を出すなどの取り組みにつなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者が参加しているため、ホームの現状を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関して理解しているが、それが全職員に浸透されていない。また、現在制度を利用している方がいないこともあり、利用が必要になった場合等に支援できる体制が整えられていない。	○	積極的に外部研修に参加したり、その後の伝達講習を開催するなど、職員全員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要を理解し、制度利用に向けた支援を行うことができる体制を整備することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待を行わないという認識の下で日々のケアを提供しているが、虐待に関する知識を深めたり、虐待を発見した場合の対応等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	より詳しい知識を得、共有するために外部研修に職員を派遣したり、その後の伝達研修を行うなどの取り組みに期待したい。また、虐待を発見した場合の対応や報告の方法についての取り決めを作成してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には方針等について利用者や家族に説明して納得を得るとともに、疑問や意見に対応している。また、退居時にも説明して同意を得ており、必要に応じて退居先に関する情報提供等を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	写真入りのホーム便りに職員が手書きのメッセージを添え、暮らしぶり等を月1回家族に報告している。また、金銭管理状況はホーム便りと一緒に、レシートを添えて報告している。健康状態や受診状況、職員の異動等については電話や面会時などを利用して随時家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見箱を設置するほか、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明記している。また、面会時には家族が話しやすい雰囲気作りを心がけている。家族から寄せられた要望や意見は職員で話し合って解決し、詳細を利用者の支援経過記録に記載している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、定期的な職員の異動や配置換えは行っていない。やむを得ず職員が交代する場合は、職員間の引継ぎを十分に行うとともに、新しい職員を利用者に紹介している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は平均的に外部研修を受講しており、その際は利用者のケアに支障がないよう勤務体制を調整している。また、研修内容は月1回の会議で他の職員に伝達している。しかし、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員がそれぞれの意欲やレベルに応じた研修を受講できるよう、希望を聞きながら、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。また、計画作成の際には、これまで研修を主催した団体等に開催予定を問い合わせるなどの取り組みも行ってはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているが、同業者との交流や連携を図る機会までには至っていない。	○	協会の研修に参加した時をきっかけとしたり、地域包括支援センターの協力を得るなど、同業者との情報交換や意見交換を行う機会を設け、得られた知識や気づきを今後の運営に反映させていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に管理者や計画作成担当者が面談して意向等を把握したり、ホームを見学してもらうなどの取り組みを行っている。また、利用開始後も、利用者が早くホームに馴染めるよう声かけを工夫する等の配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、料理や洗濯等の家事や、体操や歌を歌うなどのレクリエーションなどを利用者と一緒にやり、一人ひとりの感情を理解し、共感するよう心がけている。また、配膳や掃除、縫い物等の場面では利用者に手伝ってもらうなど、利用者と職員が助けあいながら生活を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細なアセスメントや日々の関わり、職員間の意見交換等を通じて一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、解決すべき課題等を基に提供するサービスを検討し、介護計画作成時に反映させている。また、月1回の会議で話し合った内容も計画に取り入れている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の意向の変化、職員の気づき等がないか常に気を配っており、変化等がある時は随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院、買い物や図書館等への送迎を支援するほか、家族の宿泊希望にも対応するなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関での受診継続を支援している。また、協力医療機関を確保するなど、緊急時等にいつでも対応してもらえる体制を整えている。受診結果は必ず家族に報告し、共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応しないという方針を明確にしている。緊急時は、家族に連絡するとともに、医療機関に状況を伝達して指示を仰ぐなどの手順が定められている。また、日々の健康管理についても利用者や家族との意思統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助時は耳元で声がけしたり、居室に誘導して対応するなど、一人ひとりのプライバシーや羞恥心に配慮したケアを心がけている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人ファイルは鍵のかかる戸棚に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしており、朝食の時間をずらすなどの柔軟な対応を行っている。また、その日の利用者の体調や希望等にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や苦手なものを把握するとともに、品数の多い食事を提供するなど、栄養士の資格を持つ代表者を中心に、食を楽しむケアに力を入れている。また、利用者と一緒に準備や後片付けをしたり、食事を摂っており、味の感想を話し合うなど、食事の時間を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂や早い時間の入浴など、一人ひとりの希望を取り入れながら支援している。また、入浴を拒否する利用者には家族と一緒に誘導したり、声かけを工夫するなど、無理強いすることなく促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握しており、料理が得意な利用者には漬物をつけてもらったり、書道が得意な利用者には毛筆で理念を書いてもらうなど、個々に合った役割を促している。また、屋上で野菜作りやバーベキューを行う等の楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回のスーパーへの買い物や、公園への散歩に出かけるほか、本が好きな利用者が図書館の利用を継続できるよう送迎している。また、ねぶた見物等の行事にも出かけている。運営推進会議のメンバーから利用者に参加を勧めたいイベントが紹介されることもあるなど、積極的に外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容や弊害について理解しており、拘束を行わないケアを心がけている。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族の同意を得るとともに、経過等を記録を残す体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室など、ホーム内の利用者が日常的に出入りする場所は施錠していない。ホーム入り口が建物の2階にあり、転落等の事故を防ぐために、家族の同意を得た上で1階に続く階段には柵を設置している。利用者の外出傾向を察知できるよう常に見守りを行っており、察知した時は一緒に散歩するなどの支援を行っている。また、無断外出時には交番等から連絡がもらえる仕組みとなっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間も想定した避難訓練を利用者と一緒に行うほか、非常時用のマニュアルを整備したり、災害時には消防団や交番から協力が得られる体制となっている。しかし、食料や飲料水等の備蓄品は用意されていない。	○	災害発生時に備えて、食料や飲料水、寒さをしのげる物品、ポータブルトイレ等を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	代表者が栄養士の資格を持っており、栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成している。また、一日の食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成しており、新しい情報が入った時などは適宜見直しを行っている。利用者や家族に口頭で手洗いやうがいを促しているが、職員間で勉強会を行ったり、感染症に関する情報を家族に提供する等の取り組みまでには至っていない。	○	内部研修のテーマとして感染症を取り上げ、職員間の理解を深めたり、ホーム便りに感染症に関する情報を掲載して家族に周知するなどの取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射しの強さはロールカーテンで調節しており、適度な明るさが保たれている。テレビの音量や職員の立てる物音も適度である。共用空間には畳の小上がりや絵画、博多人形、利用者手作りのちぎり絵、季節の花等が飾られており、家庭的な雰囲気となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスやソファ、テレビ、写真等の馴染みの品が持ち込まれている。また、カーペットを敷くなど、一人ひとりの希望を活かし、心地よく過ごせる空間を作っている。		

※ は、重点項目。